

そなえあれば

うれいなし

# 西淀防災Times

Vol. 6 8月29日 担当:安東、上松

8月3日(木)に、教職員対象の防災研修として、阿倍野区にある『大阪市立阿倍野防災センター』に行ってきました。今回の防災 Times では、大阪市立阿倍野防災センターで学んだことを係よりお伝えします！

今回の Vol.6 は、みなさんにお伝えしたいことが多く、両面1枚ではまとめきれないほどのボリュームがありますが、どれも大切なことなので、じっくりと目を通していただけたら幸いです。



## 大阪防災情報ステーション

当日は14名の参加となり、1グループで丁寧なガイドを受けながら館内を見学や体験をしました。はじめに、「大阪防災情報ステーション」で、映像を見ながら大阪府の地震災害の想定について分かりやすく学びました。大阪府は、昔は陸地が少なく、長い年月を経て土地を埋め立てられて現在の形になったため、海の高さよりも低い地域(海拔ゼロメートル地帯)が多いということが話がありました。ちなみに、私たちの学校がある西淀川区もその地域の1つで、海拔0メートル地帯です。

大阪府では南海トラフ地震と上町断層帯地震の2つの巨大地震が発生する可能性があることを学びました。西淀川区はどちらも震度6強が想定されています。また、津波の高さは3~5m(ビル3階くらい)が想定されるとのことでした。

## 減災と地震発生後の行動について

減災とは、あらかじめ災害によって被る被害を最小限におさえるための取り組みのことです。防災と一緒にでは?と思う方がいるかもしれませんが、防災は未然に防いで被害をゼロにするための取り組みなので、少し意味が変わってきます。地震による火災の過半数は電気が原因といわれています。阪神淡路大震災では、停電から復旧した後に大規模な火災が発生することもありました。地震発生後の行動について下記の表にまとめました。

### 【揺れがおさまった時の行動】

①火元を確認する	地震発生時に電化製品を使っていた場合は、揺れがおさまったら速やかに電源を切り、 <u>ガスの元栓を閉めてブレーカーを落としましょう。</u>
②出口を確保する	ドアや窓を開けて出口を確保しましょう。
③余震に注意する	テレビや携帯等で情報をできるだけ早く確認し、落ち着いて行動しましょう。外に出る場合は、家の倒壊に備えるために <u>安全な服装</u> で身を守りましょう。
④裸足で逃げない	激しい揺れだと、ガラスが割れて床に飛び散る危険性があります。部屋の中でも必ず靴やスリッパなどを履きましょう。
⑤連絡先の表示をする	避難所に入ったり、地域外に一時避難したりする際は、家の前に行き先等を表示しましょう。

また、上記以外の対策として、冷蔵庫や棚の上に、揺れによる転倒防止用の突っ張り棒を取り付けることも大切だということも説明がありました。



## 火災が発生した時の行動について

今回は地震だけではなく、火災についても学びました。消火器を使った消火体験や、煙が発生した時にどれくらいの速さで部屋に広がるかを見て、煙の中で避難する方法などを学びました。

### 【消火器について】

・消火器は、粉末消火器で10~15秒使うことができます。初期消火のために使用するので、火を消しきれず天井まで火が届いている状況では避難を優先します。

### 【煙の発生について】

・煙が横方向に広がる速さは秒速 0.5~1m程度とされています。ただし、階段など上昇する煙は秒速 3~5mと、人が階段をのぼる速さの10倍程度の速さになるので、2階以上で火災に遭ったら、できるだけ早く下の階に避難します。



### 【煙から避難する方法】

①口を覆う	タオルやハンカチ(持っていない場合は手や衣服)などで口を覆って、煙を吸い込まないようにしましょう。
②低い姿勢で逃げる	新鮮な空気を吸うために、できるだけ姿勢を低くしましょう。煙で視界が妨げられている時は、壁伝いに進みましょう。
③誘導灯に向かって進む	避難口を示す誘導灯に向かって進みましょう。 ※学校にもいくつかあるので、探してみてください。
④扉を閉める	煙の勢いを抑えたり避難通路への広がりを防いだりするために、防火扉などを閉めましょう。



実際に煙から逃げる体験をしましたが、子どもたちが学校にいる時に火災が発生して煙の中で避難する際は、煙を吸い込まないようにして子どもたちを守りながら低い姿勢で車いすを押して避難することになるので、どのようにして煙を素早く遮断させるか、すぐに外へ逃げるためのルートをどうするかについて学校全体で意識していく必要があると実感しました。

### 震度7を体験

阪神淡路大震災と南海トラフ地震で想定されるゆれの2種類を体験しました。阪神淡路大震災(直下型地震)では、突然強いゆれから始まり、縦に突き上げるようなゆれが約20秒間で何度もありました。一方で南海トラフ地震の想定(海溝型地震)では、最初は小刻みにゆれ始めたと思いきや、横に激しく揺さぶるようなゆれに変わり、両手に力を入れて何かに支えないと耐えきれないゆれが約65秒間続きました。明日来てもおかしくない、と言われている南海トラフ地震を想定したゆれを体験し、身動きがとれないほどの強いゆれで、どのようにして自分や子どもたちを守るかについて考えさせられました。

### 身のまわりの物で救護ができる！

地震で怪我や骨折をしたときに、すぐに病院へ行けない可能性が高いです。その場合は、身のまわりの物を使って応急処置をすることができるということを体験的に学びました。どれも知っておくと便利なことなので、是非覚えて、怪我した時などに実践してみてください。

※画像は『内閣府防災ページ できることからはじめよう!』より

#### 【止血を伴う怪我をした場合の応急処置】

\*準備物:ガーゼ、タオル、ネクタイ

- ①傷口にきれいなガーゼをあてる。※他人にすときは血液に直接触れないようにする。(感染症防止のため)
- ②手に力を入れて圧迫止血をする。
- ③止血ができれば、ガーゼについての血液に触れないように注意して、ネクタイなど結べるもので固定する。



#### 【腕を骨折した疑いがある場合の応急処置】

\*準備物:ガーゼやハンカチ、ネクタイ、雑誌または新聞紙、ビニール袋(取っ手付き)

- ①折れた部分の両側の関節に、雑誌または新聞紙を挟み、ネクタイなどで結ぶ。※患部に直接あてないように注意!
- ②ネクタイで固定しきれない場合は、ガーゼ等でさらに固定する。
- ③ビニール袋の側面を片方だけ切って広げ、表面に固定したところをのせるようにし、取っ手部分を頭から通す。
- ④取っ手部分が圧迫されて首が痛くなるので、ハンカチ等を首の後ろに入れる。



## 防災グッズについて

体験を一通り実施した後、自由に施設内を見学する時間がありました。最後に、持っていたら便利な防災グッズを一部ご紹介します！ ※一部、写真が小さくて見にくいかもしれません。

<p>①ラップ</p> 	<p>食器のラップで覆って、その上に食べ物を置くと洗い物が減らせ、水なしでも衛生的に食事ができます。また、保温効果があるので身体を覆ったり、怪我した時に包帯の代わりとして使ったりすることができます。</p>
<p>②アルミブランケット</p> 	<p>こちらは、災害時に使うアルミシートとして学校にも 20 枚ほど備蓄倉庫に保管しています。 ※一部は防災教育で貸し出し可としています。 災害時に身体を覆って体温を維持するために使用するだけでなく、日差しや風、雨にも守ってくれるブランケットです。</p>
<p>③ろうそく</p> 	<p>寒い日に避難が必要となった際に、暖をとることができる道具です。1本で長時間燃焼します。また、光が必要な時にも使用することができます。</p>
<p>④防災用ウェットボディタオル</p> 	<p>災害でお風呂に入れない時に、身体や汗を拭くことができる道具です。厚手で丈夫な素材でできており、このタオルで全身を拭き取ることができます。5年間の長期保存ができます。</p>
<p>⑤ソーラーパネル付きリュック</p> 	<p>ソーラーパネルが備え付けられているリュックです。太陽光で背負っているだけでいつの間にかモバイル機器等の充電ができてしまいます。撥水加工となっているため、雨の日でも使えます。防災以外でも、普段の通勤やアウトドア目的で使用もできます。</p>

## 研修参加者の感想

研修後、Google フォームでアンケートにご協力いただきました。ほとんどの先生方が研修に参加して「とてもよかった」とご意見をいただきました。今回参加された先生方の感想を一部紹介いたします。

●学校周辺のハザードマップが詳しく確認できたり、災害が起きた時の体験をしたりと興味深く学ばせていただきました。地震のシミュレーションを体験して児童生徒の医ケアや介助などを行っている途中で地震が起きてしまったらと考えるとどのように対応すべきかが難しく感じました。

●震度7の揺れ、初期消火、エレベーターに閉じ込められた時、など様々な体験学習ができ、とても勉強になりました。

●教室内の棚の上に置いてあるものや児童用ベッドの隣の窓ガラス(普段からカーテンは閉めているが割れた破片が落ちて刺さらないか)ホールに各教員が教材を入れているロッカーの上に置いてあるもの(中央ホールのロッカーはぐらついているかも)はいずれも児童生徒が普段生活している側にあります。学校全体で地震が起きた時に児童生徒の事故が最小限に抑えられるにはどうすればいいのかをもう1度考えてみるのも良いかもしれません。

## 研修を終えて・・・

大阪府における土地の構造などを知ったり、実際に地震の揺れや火災、津波の想定を体験的、視覚的に学んだりしたことで、災害の恐ろしさや実際に災害が発生した時はどうすればよいのか、とても考えさせられました。今回は大人の視点で避難する方法や対応しなければならぬことについて学びましたが、バギーや車いすに座っている子どもたちのことを考えると、対応が難しいと感じることもたくさんありました。私たちに必要なことは、一人ひとりが防災に関して向き合い、あらゆる災害の想定をすることや、想定外なことが起きた場合にどうすればよいかをあらかじめ話し合うことではないかと思います。

11月に防災 PT主催で実施する地震津波避難訓練では、今回の研修で学んだことを取り入れて行う予定です。今回の研修に参加した先生方などから話を聞いたりして、子どもたちの命をどう守るのかクラス等で話し合ってみてください。